

【大阪医科薬科大学病院の概要】

病院名:大阪医科薬科大学病院

Osaka Medical and Pharmaceutical University Hospital

所在地:〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

電話:072-683-1221(代表)

病床数:894床(一般病床:863、精神病床:31)

<病院の特徴>

大阪医科薬科大学病院は特定機能病院として、高度かつ専門的な医療を提供するとともに、大学病院として最先端の研究および次代を担う人材育成に取り組んでいます。地域医療の要として、当院でしか受けることのできない高度医療の提供と安全性の確保を使命としています。

病院本館は「Super Smart Hospital」をコンセプトに整備され、2期に分けて建設されました。第1期として2022年7月に開院したA棟には、三島医療圏の三次救急を担う救命救急センターを設置し、年間10,000人以上の患者を受け入れています。また、12階にはがん医療総合センターを配置し、先進的な検査・治療設備を備えています。第2期として外来および病棟機能を有するB棟が2025年5月に竣工し、同年7月22日に病院本館が全面開院しました。B棟には患者サポートエリアを新設し、診療と生活支援の両面から患者を支える体制を整えています。さらに、院内には自然を感じさせるホスピタルアートを導入し、1階総合案内には森の大樹をモチーフとしたシンボルツリーを設置するなど、療養環境にも配慮しています。

当院は、新たな技術を積極的に取り入れたスマート医療を実践し、高度で安全な医療の提供と新しい医療の創造を推進しています。

病院整備計画

～Super Smart Hospital 超スマート医療を推進する大学病院～



● 2024年度実績

- 1日平均患者数;(外来)1,689.7人 (入院)754.6人
- 平均在院日数 ;11.4日 病床稼働率;90.5%
- 手術件数;1,024.9件/月
- 薬剤管理指導件数;2,582.2件/月
- 院外外処方箋発行率;97.6%
- 1日平均処方箋枚数;[外来](院外)812.2枚 (院内)23.1枚
(入院)510.9枚 (入院注射)2,492.1枚

<薬剤部運営の特徴>

薬剤部では、安全で質の高い薬物療法の提供を目指し、「薬あるところに薬剤師あり」を実践しています。薬物療法の有効性と安全性を確保するため、医薬品に関するすべての過程に関与し、その適正使用を推進しています。

処方監査、調剤、服薬指導、情報提供を通じて薬物療法を支えるとともに、病棟では患者情報の把握や安全性情報の共有・評価を行い、副作用の未然防止と重篤化回避に取り組んでいます。

全科・全病棟に専任薬剤師を複数配置し、「顔の見える」病棟業務を標準的に実践していることも当院の特徴です。また、ICT、NST、がん、緩和ケア、糖尿病、周術期、救急など多くの医療チームに参画し、多職種と連携しながら薬物療法に貢献しています。

さらに、幅広い業務経験を通じて成長できる教育体制を整え、院内外研修、学会発表、論文投稿、認定資格取得を積極的に支援しています。ジェネラリストとしての基盤とスペシャリストとしての専門性を兼ね備えた薬剤師の育成を目指しています。

●スタッフ構成(2026年2月現在)

・薬剤師(他部署兼任者含む)

常勤 71名、非常勤 11名(短時間 2名、契約・嘱託 2名、アルバイト 7名)

薬学臨床助手^{*1} 2名 ※1 臨床薬剤師研修プログラム規程に従う

・薬剤補助員(事務) 常勤 1名、非常勤 8名(契約 1名、アルバイト 7名)

●業務紹介

I. 安全管理を重視したセントラル業務

薬剤部では、医薬品の適正使用を推進するため、処方内容(適応、用法・用量、投与方法など)を確認し、必要に応じて医師へ疑義照会や処方提案を行っています。また、患者の状態変化に応じた薬剤調整や、服薬・投与方法の工夫など、個別性に配慮した対応を行っています。調剤業務では、画像監査や錠剤一包化鑑査支援システム、注射薬自動払出しシステムなどの機器を活用し、安全かつ正確な調剤体制を構築しています。さらに、SPDスタッフとの協働により、医薬品の適切な保管管理や搬送業務を含めたトレーサビリティの確保に取り組んでいます。



II. 病棟薬剤業務

集中治療室や新生児集中治療室、手術室や救急外来を含む全病棟・各部署に担当薬剤師を配置し、患者ごとの薬学的管理を実践しています。薬歴やアレルギー歴、相互作用などを確認するとともに、検査値や病態を踏まえて薬物療法を継続的に評価し、必要に応じて用量調整や処方変更・中止などを医師へ提案しています。

また、医師、看護師、栄養士等の多職種と連携し、医薬品の適正使用や副作用管理に関する情報提供・共有を行っています。さらに、プロトコルに基づく処方支援(代行オーダー)を通じて医師業務の負担軽減にも寄与しています。

加えて、患者への服薬指導を通じて、入院中から退院後まで一貫した薬物療法の支援を行い、安全で継続可能な治療の実現に取り組んでいます。



III. 化学療法センターにおける薬剤師業務

当院では、複数名のがん専門薬剤師が化学療法センターに常駐し、抗がん薬治療における薬剤説明や副作用管理、服薬指導を実施しています。投与前には全例で投与量や検査値を確認し、入院・外来を通じて継続的かつシームレスな薬学的管理を行っています。また、薬剤師による「がんサポート外来」を設置し、経口抗がん薬の指導や副作用評価を行うなど、診療支援体制の充実を図っています。地域連携にも注力しており、情報共有シートの活用やトレーシングレポートの運用、研修会の開催を通じて、保険薬局との情報共有と連携強化を推進しています。

抗がん薬の調製は化学療法センターに設置したミキシング室で一元的に実施し、無菌調製および閉鎖式器具の導入により医療従事者の安全確保にも配慮しています。さらに、注射薬混注鑑査システムや抗がん薬調製支援装置(DARWIN Chemo)を導入し、安全性と効率性の向上を図っています。これらの先進的な機器の活用により、業務の効率化と安全管理の強化を両立しています。



IV. 医療チームへの薬剤師の配置・参画

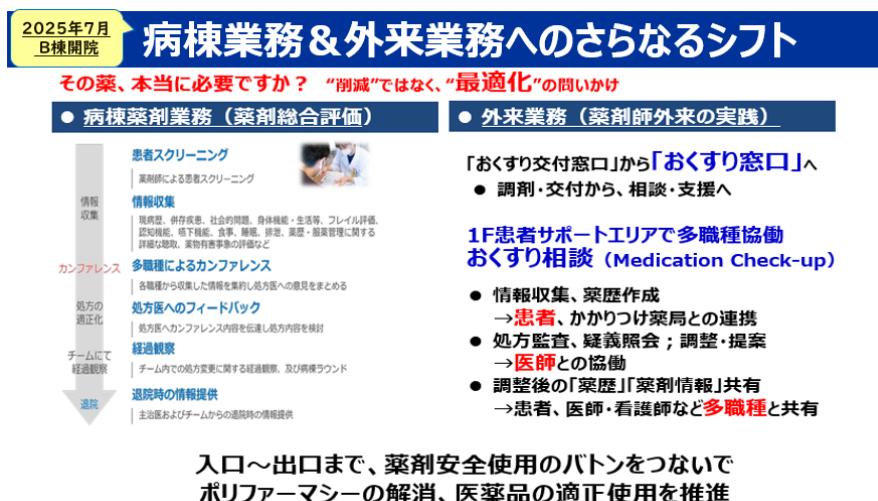
AST、ICT、緩和ケアチーム、NST、褥瘡チームなど、多職種チームに参画し、専門性を発揮しながらチーム医療に貢献しています。また、各種患者教室(糖尿病教室、肝臓病教室、透析導入教室等)にも関与し、患者教育や薬物療法の適正化に取り組んでいます。

V. 患者サポート(入退院支援業務)

2025年に竣工した病院本館B棟では、患者サポートエリアの機能拡充により、病院のフロントラインが大きく再編されました。PFM(Patient Flow Management)については、現在も業務フローの見直しと整備が進められています。

多職種が連携しながら各種トライアルを実施しており、薬剤部では、入院前の薬剤確認に関する薬薬連携(入院前服薬情報提供依頼書[病院⇄薬局]の運用)から、退院・転院時の支援まで、切れ目のない取り組みを推進しています。

また、医療DXの進展に対応した患者情報の電子的共有を進め、Super Smart Hospitalの実現に向けて、より質の高い医療の提供を目指しています。薬剤師は、チーム医療のキーパーソンとして、主体的に気づき行動できる専門職としての役割を果たし、その機能を最大限に発揮していきます。



VI. 教育・研修

薬剤部にカリキュラム委員会を設置し、学生教育から臨床・学術教育までを一体化したシームレスな教育研修体制を整えています。メンター制度のもと、初期研修では調剤業務や医薬品管理業務を中心に基礎的技能を習得し、クリニカルラダーを用いて到達度を評価しながら段階的に育成を行います。

その後、病棟業務を通じて実践力を高めるとともに、臨床上の疑問をクリニカルクエストンとして捉え、文献検索や論文読解を通じて課題解決能力を養います。さらに、症例報告や臨床研究、部内発表などを通じて学術的視点を培い、後輩指導や業務改善にも主体的に関わる体制としています。

加えて、「がん」「緩和」「感染症」「糖尿病」「栄養」などの専門領域について体系的な教育支援を行い、認定・専門薬剤師の取得を推進しています。各種研修施設としての認定を受けており、実務を通じて要件を満たせる環境と、指導体制を整備しています。

<見 学 時 間> 7月24日(金)14時～16時

<受入れ予定人数> 10名程度

<見学者の集合場所> 本館B棟1階 薬剤部 おくすり窓口

<交 通 機 関>

●電車をご利用の方(近郊より)

- ・JR 東海道本線「高槻」駅より徒歩約 8 分
- ・阪急京都線「高槻市」駅より徒歩約 3 分

●電車をご利用の方(遠方より)

- JR 東海道・山陽新幹線をご利用の場合/所要時間:約 30 分
 - ・「新大阪」駅下車、JR 東海道本線に乗り換え、新快速(京都方面)で「高槻」駅下車
 - ・「京都」駅下車、JR 東海道本線に乗り換え、新快速(大阪方面)で「高槻」駅下車

●お車をご利用の方

- ・国道 171 号「八丁畷」交差点から府道 79 号へ入って 2 つ目の信号を左折してすぐ
- ・名神高速道路から府道 79 号へ入り別所交差点を南下して次の信号を右折してすぐ

● 高速道路をご利用の方

- ・新名神高槻 IC 出口「高槻・川久保方面」から「高槻 IC 前」交差点を左折、府道 79 号線を南下し、別所交差点を左折。
陸橋を渡りセブンイレブンのある信号を右折し、北門より入構ください。

なお、本院の立体駐車場は、駐車台数に限りがあり、平日の午前中には入庫するまでに時間がかかる場合がございます。大変ご不便をおかけ致しますが、混雑緩和のために公共交通機関をご利用いただきますようお願い申し上げます。

<案 内 図>

